

平成26年3月
酒田市（山形県）

○計画期間：平成21年3月～平成27年2月

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成25年度終了時点(平成26年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市は、平成21年4月以降、認定基本計画に基づき「にぎわいあふれる商業のまち」「訪ねて楽しい観光のまち」「暮らしやすく多様な世代が住むまち」の基本方針のもと各種事業を展開してきたが、目標とした活性化には至っていない状況にある。

その理由としては、主要事業に位置付けた事業のいくつかについて、経済状況の長引く低迷や東日本大震災の影響等により、事業の中止または延期を余儀なくされたものもあり、計画通りに事業が実施できていない点があげられる。特に、民間事業については、実施に向けた検討は継続して行われているものの、そのほとんどが実施できていない状況にある。

一方で、街なか観光の推進に向けた海鮮モール整備事業により、平成22年1月に酒田みなと市場が完成し、隣接する本市の観光拠点施設であるさかた海鮮市場や周辺に位置するさかた夢の倶楽(山居倉庫)との相乗効果もあり、集客・回遊の拠点施設になるとともに、観光客誘客のシンボリックな存在としてにぎわい創出に大きく寄与している。

また、中心商店街の活性化についても、市と商工会議所が連携して中心市街地まちづくり推進センターを設置し、空き店舗対策やにぎわい創出に向けた助成制度を拡充するなどの施策を展開したことや、商店街のやる気の醸成を図るために国等の支援制度の積極的な活用を促したことから、歩行者・自転車通行量についても指標目標の達成には至っていないものの、基準値を上回る数値で推移しており、今後の活性化に期待ができる状況となっている。

2. 平成25年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

年1回の開催ではあるが協議会を開催し、認定基本計画の進捗状況の確認と計画変更の内容について協議するとともに、講師を招いての中心市街地活性化に向けた研修を実施している。

商店街組織からは、「厳しい状況は変わらないが、新しい店が開業するなど空き店舗の増加には歯止めがかかった感がある」など一定の評価もあるものの、一方で「市の玄関口である駅前があまりにさびしい。早急な再整備が必要」「中心市街地に以前のような賑わいが欲しい」などの計画の達成度に対し厳しい意見も多く聞かれる。

中心市街地の活性化に向けて、未着手の主要事業の実施に向けた対策検討と活性化に資する新たな事業の計画が必要と考える。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
中心商店街の活性化	歩行者・自転車 通行量	2,276 人 (H20)	3,100 人 (H26)	2,324 人 (H25)	③	③
街なか観光の推進	観光施設入込数	1,549,077 人 (H19 年)	1,600,000 人 (H26 年)	1,542,055 人 (H25 年)	①	③
街なか居住の促進	居住人口	2,954 人 (H20)	2,960 人 (H26)	2,705 人 (H25)	③	④

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

(1) 中心商店街の活性化

現時点では歩行者・自転車通行量の目標数値をクリアしていないものの、各商店街が自発的に商店街の資質向上に向けた研修事業を開催したり、商店街のマップ作製やスタンプラリー等の販促事業を展開するなど来街者の確保に向けた様々な事業を展開しており、更には、創業塾の開催やチャレンジショップの実施など市と商工会議所が連携し、商店街の担い手育成に向けた支援事業を実施していることから来街者が増加する兆しが出てきている。今後の、未着手事業や新規事業の実施により計画終了時までには目標を達成する賑わいが創出されるものと考えている。

(2) 街なか観光の推進

東日本大震災の影響等により目標を下回っている状況にはあるが、26年度の山形DCキャンペーンの実施に合わせて、全市をあげて様々な観光客誘致事業を展開予定である。更には、傘福展示施設山王くらぶ（H23改修を実施）の企画展示等による更なる集客力の向上を図るとともに、酒田まちあるき推進事業等の回遊性を高めるソフト事業の展開、中心市街地で開催する各種イベントとの連携の推進、街なかにある観光施設への誘導を図ることにより、目標を達成できるものと考えている。

(3) まちなか居住の促進

湊マンション整備事業及び酒田駅前地区優良建築物等整備事業については、実施事業者の都合により実施を断念したが、住宅改善支援事業等を活用した空き家・空き店舗対策事業の推進とその他の主要事業の実施に伴う中心市街地の活性化（魅力・利便性向上）により居住人口の増加を促進する。

3. 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

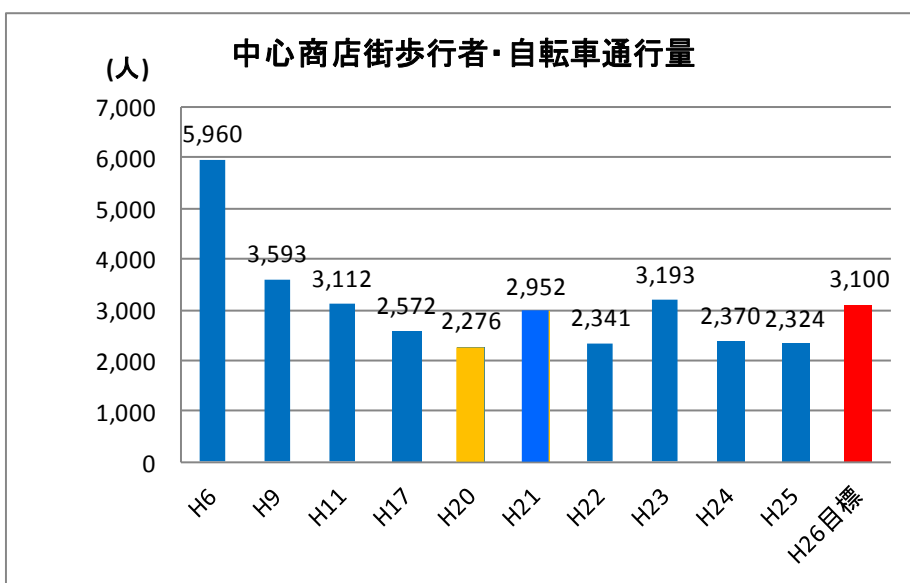
「観光施設入込数」について、平成23年度フォローアップ(22年度の実績)においては既に目標値をクリアしている状況にあったことから目標達成可能(①)と見込んでいたが、東日本大震災を機に入込数が減少し、震災前の状況には戻っていない状況にあることから、③と評価した。

「居住人口」については、予定していた増加要因事業の計画期間内での実施が困難な状況となったことから、③から④に評価を変更した。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

(1)「歩行者・自転車通行量(平日)」※目標設定の考え方基本計画 P53~P58 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H20	2,276 (基準年値)
H21	2,952
H22	2,341
H23	3,193
H24	2,370
H25	2,324
H26	3,100 (目標値)

※調査方法；調査対象における測量

※調査月；10月[平日(第一木曜日)：7時~19時]

※調査主体；酒田市

※調査対象；酒田市中心市街地3地点における歩行者・自転車数

(ジャスコ跡地前、佐藤伝兵衛薬局前、まる五前)

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 酒田駅前地区優良建築物等整備事業(株)酒田フロントスクエア)

事業完了時期	【未】26年度
事業概要	酒田駅前ジャスコ跡地へのホテル、商業施設、駐車場、住宅棟の整備
事業効果又は進捗状況	本事業は、酒田駅前ジャスコ跡地と周辺区域において、ホテル、商業施設、駐車場、住宅棟からなる複合施設を整備し、酒田の玄関口の拠点施設として賑わい創出、中心市街地の活性化を図るものである。

	平成 22 年 9 月に事業主体である(株)酒田フロントスクエアが設立され、基本設計・入札まで実施したが、東日本大震災の影響による資材費及び労務費等の高騰により工事を中止せざるを得ない状況となり、現在、新たな事業実施に向け調整中。
--	---

②. 中町ふれあいサロン整備事業（酒田まちづくり開発株）

事業完了時期	【未】平成 26 年度
事業概要	旧北都銀行跡地に飲食機能、貸しホール機能、ポケットパークを整備
事業効果又は進捗状況	<p>本事業は、中町中和会商店街の中心に位置する「旧北都銀行」を活用して、「飲食」「音楽」「映画」を切り口に、老若男女が集い交流を図ることにより、賑わい創出を推進するもの。</p> <p>実施においては既存建物を活用することを予定していたが、耐震や防火設備上において課題があり、既存建物を活用することが困難となった。建替え等には過大な経費を要することから、事業内容の一部を見直しながら新たな事業展開を検討中である。</p>

③. 酒田料亭横丁整備事業（酒田まちづくり開発株）

事業完了時期	【未】平成 26 年度
事業概要	商店街の空き地を活用し老舗料亭の味を堪能できる屋台村を整備
事業効果又は進捗状況	<p>本事業は、老舗料亭の味を手軽に堪能できるとともに、酒田の料亭文化に触れ、湊町として栄えた歴史を感じながら「食」を通して、市民や観光客等幅広い集客を図ることにより、中心市街地の賑わい創出に資するものである。</p> <p>当初 23 年度の事業完了に向け、21 年度より事業実施に向けた検討を進めてきたが、事業実施場所の確保や投資事業費の回収が困難となったこともあり、現在、実施主体において事業の方向性について検討を行っている。</p>

④. 新産業会館整備事業（株）酒田なかまち開発（仮称）

事業完了時期	【未】26 年度
事業概要	産業会館を現行の耐震基準に適合するよう改築し交流施設として整備
事業効果又は進捗状況	<p>本事業は、老朽化が進んだ産業会館を現行の耐震基準に適合するよう改築し、商工会議所、金融機関、コンベンション、飲食機能などを有する交流施設として整備するもの。地域商工業者の経営支援活動拠点であるとともに、地域住民が広く利用できる交流拠点として中心市街地の活性化に資するものである。</p>

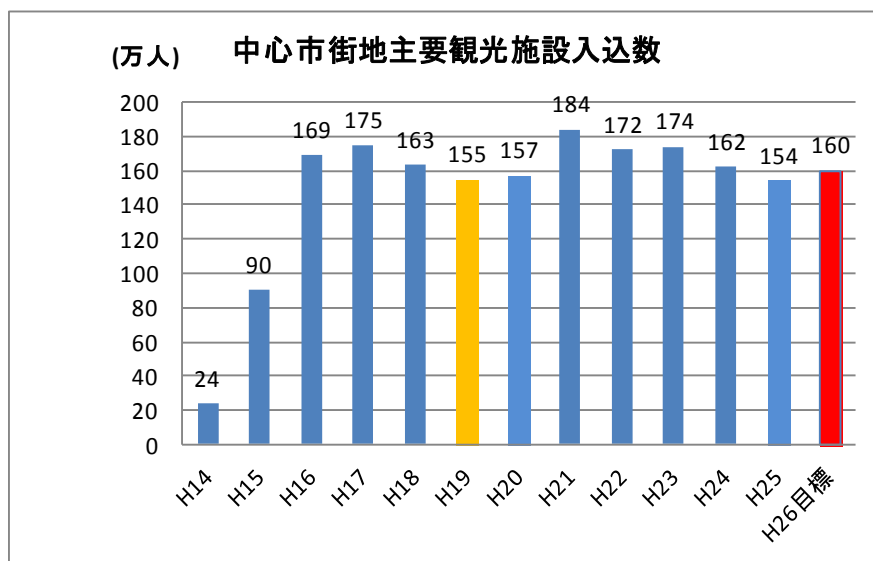
産業会館の建物所有者において、既存建物の安全性等を確認する耐震診断を実施しており、その結果を踏まえての整備のあり方について検討を行っている。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「中心商店街の活性化」については、主要事業のほとんどが実施されていないことから、現時点では目標達成には至っていない状況にある。一方で、市と商工会議所が連携して設置した中心市街地まちづくり推進センターによる新規開業支援や空き店舗対策、賑わい創出に向けた商店街振興施策の拡充により、新規開業店舗の増加、商店街組織の活性化に向けた前向き取り組みが増えたことなどから、空き店舗の増加や来街者数の減少に一定の歯止めがかかってきた感があり、目標は達成できていないものの基準値を上回る数値で推移している。今後、主要事業のいくつかが始動するだけでも、市民の関心や来街機会の向上につながることから、未着手の既存事業と新規事業の着実な実施により目標の達成は十分可能であると考えている。

(2) 「観光施設入込数(年間)」 ※目標設定の考え方基本計画 P58～P62 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H19	1,549,077 (基準年値)
H20	1,566,851
H21	1,837,358
H22	1,815,744
H23	1,736,803
H24	1,623,336
H25	1,542,055
H26	1,600,000 (目標値)

※調査方法；対象施設への間取り

※調査月；翌年4月

※調査主体；酒田市

※調査対象；中心市街地主要観光施設 14 か所

(旧白崎医院、旧燈屋、酒田海洋センター、市立資料館、さかた海鮮市場、
庄内米歴史資料館、酒田夢の倶楽、本間家旧本邸、海向寺、相馬樓、山王くらぶ、
酒田市みなと市場、NKエージェント、みどりの山居館)

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 海鮮モール整備事業（酒田市）

事業完了時期	【済】平成 21 年度
事業概要	鮮魚を中心としたテナントミックス店舗「酒田みなと市場」を整備
事業効果又は進捗状況	<p>本事業は、本市の観光資源である「海の幸」を中心とした多様な物産を、市民や観光客に手軽に提供する場を集積することにより、集客力と買い物客の回遊性を向上させ、中心市街地の賑わい創出を推進している。</p> <p>平成 22 年 1 月 23 日の開設以来、毎年 20 万人前後の入込数を確保しており、観光面での集客拠点施設として県内外からの誘客と中心市街地への来街者確保に大きく寄与している。</p>

②. 山王くらぶ企画展示事業（酒田市）

事業完了時期	【実施中】平成 20 年度～
事業概要	山王くらぶにおける各種企画事業を実施
事業効果又は進捗状況	<p>本事業は、かつて料亭である山王くらぶにおいて、本市の歴史や文化を紹介する展示を行い、また民芸品（傘福・鶴渡川原人形）の体験工房等の体験型観光を充実させ、来街者の回遊性の向上、中心市街地の賑わい創出を推進している。なお、既存建造物活用事業による改修も実施し充実を図っている。</p> <p>平成 20 年 4 月 20 日の開館以来、毎年 2 万人を超す入込数を確保しており、当初目標数値を上回っており、観光集客施設として大きく寄与している。</p>

③. 飛島定期航路新造船就航（酒田市）

事業完了時期	【済】平成 22 年度
事業概要	酒田～飛島間の定期航路の新造船を整備
事業効果又は進捗状況	<p>本事業は、県内唯一の離島である飛島と酒田を結ぶ定期航路の新造船を整備し、航海時間の短縮やバリアフリー化等の快適性の向上を図り、市内周遊観光機能を向上させ、その効果を中心市街地の街なか観光へ波及することを目指すものである。</p> <p>乗客数は、平成 19 年度以降減少し、東日本大震災後の平成 23 年度が大きく落ち込んだが、島民数が減少している中でも平成 25 年度では平成 21 年度の水準まで回復してきている。これは、東北公益文科大学との連携や地域おこし協力隊の活用等による飛島観光のソフト事業の充実が図られたことも効果としてあり、引き続き、この活動等を展開していき乗客数の増につなげていく。</p>

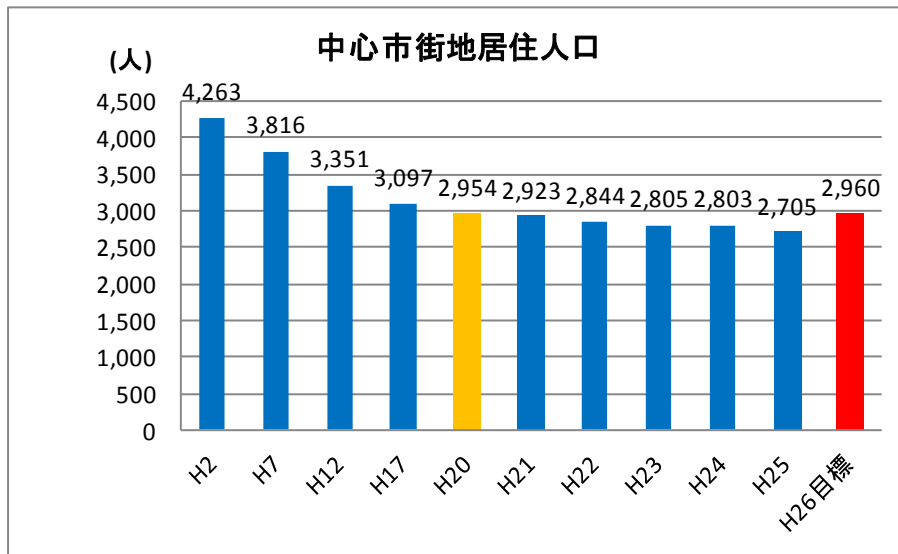
●目標達成の見通し及び今後の対策

「街なか観光の推進」については、主要事業である海鮮モール整備事業により酒田市みなと市場を平成22年1月に開設し、さらに、映画「おくりびと」のロケ地である旧小幡（NKエージェント）への入込数と相まって、21年度に観光入込者数が約184万人となったが、その後は、「おくりびと」効果の減退や東日本大震災等の影響により観光入込数が減少し、25年度末時点では154万人と目標数値を割り込む状況となっている。

一方で、26年度は本県において10年ぶりに山形DC（デスティネーションキャンペーン）が開催されることから、本市においても観光振興の機会と捉え、酒田まちあるき推進事業による「まちあるき獅子十六めぐり」や映画「おくりびと」の撮影場所となった旧割烹小幡（NKエージェント）の無料見学会などの実施に加え、主要観光施設である山王くらぶにおける企画展示事業の拡充により街なか観光の推進を図る。更には、飛鳥定期航路新造船就航事業により平成22年に就航した「とびしま」を活用した夕日クルーズの実施などにより、観光客の誘客、観光施設への入込数の増加に反映させ、目標の達成につなげていく。

（3）「居住人口」※目標設定の考え方基本計画 P63～P64 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H20	2,954 (基準年値)
H21	2,923
H22	2,844
H23	2,805
H24	2,803
H25	2,705
H26	2,960 (目標値)

※調査方法；統計資料（H2～H17は国勢調査、H20～は住民基本台帳）

※調査月；9月30日 ※調査主体；酒田市

※調査対象；酒田市中心市街地（船場町1～2丁目、日吉町2丁目、幸町2丁目、二番町、中町1～3丁目、本町1～3丁目、山居町1丁目）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 【追加】酒田駅前地区優良建築物等整備事業（株）酒田フロントスクエア）

事業完了時期	「【再掲】P3 参照」
事業概要	
事業効果又は進捗状況	

②. 住宅改善支援事業（酒田市）

事業完了時期	【実施中】平成16年度～
事業概要	賃貸住宅の新築・増築、店舗・事務所の賃貸住宅改修への支援
事業効果又は進捗状況	<p>本事業は、住宅環境の改善を促進し、地域経済の活性化と中心市街地への居住誘導を図るものである。</p> <p>21年度より貸付金の対象を拡充しており、継続実施により利用の拡大につなげていく。</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

当初計画していた主要事業である湊マンション整備事業が実施事業者の都合により実施を断念し、その後、酒田駅前地区優良建築物等整備事業において、ホテルや商業施設と合わせて居住施設も整備を予定したが、東日本大震災等の影響により、資材費及び労務費等が高騰したことから、入札不調に終わり事業実施を断念している。

計画期間内での目標達成は厳しいものとするが、現在、酒田駅前地区優良建築物等整備事業の予定地を含めて、新たな駅周辺整備計画を検討中である。